社会面

震災、そして再起。今の神戸を体で

NY公演

に転向。一九八四年に自分のスタジオを開き、八八年から三年間、ニューヨークで技を磨いた。

震災はニューヨーク滞在中に起こった。両親や姉妹など肉親とも連絡がつかず、テレビニュースが映し出す被災地の様子にただぼうぜんと見入った。

帰国すると、須磨区内の自宅兼スタジオは半壊、辺りは焼け落ち、見知らぬ街のようだった。「早く生徒たちを励ましたい」。震災後約二カ月でレッスンを再開した。

「Great」は、西洋文化を取り入れ、独自の文化を花開かせた神戸の土地柄を、明るく表現しながら、突然襲った震災と、がれきの中から立ち上がる人々の力を二十五分間のダンスで表現する。

救急車やパトカーのサイレンの中、傷つき、放心する被災者の姿を描き出す場面では、被災体験を持つ生徒が踊れなくなることが何度もあった。

「外見的に復興したようでも、内面はまだまだ」と藤樹さん。「全部が復興したわけではないというメッセージも込めて踊りたい」と話している。

会場は、セントラルパーク北西のリバーサイド教会。現地時間の午後八時に開演する。プログラムは、ほかにわらべ歌や小品集など。

ナルダンスセンター

遺体を損壊

同僚の容疑者供述

さいたま市の大宮赤十

米国のテンバー総領事の公費流用疑惑で、総領事が公邸改修費用二十万ドル(約二千五百万円)を入金していたことが二十日、外務省関係者の証言で分かった。

一時、銀行の個人口座に改修に当たった大手セネコン系列の現地の建設会社に支払われたのは十一万ドルだったことも判

伊能が測った江戸の姫路

大図の写し22枚を公開

江戸時代後期の測量家、伊能忠敬(一七四五—一八一八年)がつくった「大図」と呼ばれる日本地図の写し二百六枚を米国議会図書館で発見した研究グループが二十日までに、写しを撮影した写真のうち、これまで未公開だった二十二枚の公開に応じた。

二十二枚に収められた地域は現在の宮城、愛知、兵庫、京都、徳島など計十九府県にまたがっている。

写しは一枚が畳一枚分の大きさ。約二百年前の地名や城、集落が丁寧に書き込まれ、街道や海岸線など測量に用いた線が赤で描かれている。

大図は日本列島を二百十四に分け縮尺三万六千分の一で描かれ、近代の全国地図の基になったが、原図は火災などで焼失。写しも関東周辺の約六十枚しか見つかっていなかった。

「伊能忠敬研究会」(渡辺一郎代表理事)が日本国際地図学会、日本地図センターとの共同研究で残りのほとんどの部分に当たる二百六枚を発見。撮影状態が特に良い数枚を公開したが、全国から「地元の地図を見たい」と声が寄せられたという。

渡辺さんは「できれば、各地で大図を原寸大で展示したい」と話している。

姫路(現在の姫路市)周辺が描かれた地図。中央が姫路城、下方が播磨灘。上が北(伊能忠敬研究会渡辺一郎氏提供)